

牛久市第3次総合計画・後期基本計画(案)に対するパブリックコメントの結果について

1. 意見募集期間

平成29年2月10日(金)～平成29年2月23日(木)まで

2. 意見が提出できる方

市内に住所を有する方

市内に存する事務所または事業所に勤務する方

市内に存する学校に在学する方

3. 計画(案)の公表・閲覧場所

牛久市役所3階政策企画課

牛久市中央生涯学習センター

奥野生涯学習センター

三日月橋生涯学習センター

エスカードプラザ

牛久運動公園

牛久市中央図書館

牛久市役所ホームページ

4. 意見提出数

4件

5. ご意見内容と市の考え方

通番	ご意見	市の考え方
1	<p>平成 21、22 年に、主記基本計画の作成のため、協議会メンバーとして産業分野、市街地東地域分野の作成に参画しました。落ち着いた、住みよい街、スローシティーを目指して、次の点につき、メンバーと共に、重点を置いて議論し、纏めました。この度は、過ぎた5年間をふり返り、意見を申し上げたく。</p> <p>1. 産業分野に関し、</p> <p>圏央道の工事が進展しておりましたが、当市の産業は、商業と、農業に重点を置き、むしろ工業については、当市に相応しいものであれば立地を受け容れる。</p> <p>即ち、商業、農業主体に育成・助成することとし、そのための施策を実施することを提言しました。特に、農業に関しては、①近郊農業に主眼を置き、野菜、果物等に注力することの重要性を指摘し、農家がグループを組織して、自主的に生産計画をたて、自主販売をすること、②農家の技術指導の元、企業による農業への参入誘致、③市民による市民農園を促すだけでなく、例えば都内からも泊りがけで来られるような農園計画の助成等を具申したつもりであります。</p> <p>どうしても農家は、農協管理のもと、拘束のなかで、頑固に活動することに慣れ親しんでおり、特に自家販売については考えがたい等、他の分野から見ると効率が必ずしも良いとは言えない活動をしております。グループを作り協力しての活動・経営する感覚に欠ける点が多く、難しいとは思われますが、この点を修正する施策が、強く求められます。</p> <p>5年前と比べ、進展がみられるとは、云えません。グリーンファーム、企業による農業も一時に比べ停滞しており、動きが静かになっているように思えます。</p> <p>商業については、商工会青年部の活躍を待つしかない状況に</p>	<p>1. 産業に関すること</p> <p>まず、ご意見の内容は、①企業立地について、②農業振興について、③商業振興についての3点に関するものとして、本後期計画における考え方をご説明します。</p> <p>①企業立地について</p> <p>長年ベッドタウンとして成長してきた本市の産業は、事業所数や従業員数などにおいて、居住者をターゲットとしたサービス業の割合が高く、製造業の割合が低い傾向があります。また、市外勤務者が多く、市内経済はそういった市民の所得に支えられている傾向があります。一方、進学後の若者が本市に戻ってこないこと、女性の就業率が低いことから、市内の雇用が不足していることも考えられます。</p> <p>そのため産業の誘致に関しては、「ベッドタウンとして市民の暮らしを高める」視点、「若者や女性の雇用を創出する」視点をもって取り組んでいきます。</p> <p>こうした考え方については、基本計画第5章1節に記載しています。</p> <p>②農業振興について</p> <p>農業は、本市がベッドタウンとして発展する以前から本市の基盤産業です。しかし、後継者不足による従事者の減少などにより遊休農地も増加しており、市内経済、雇用、景観など様々な観点</p>

あります。纏まって活気ある、地元に着した活動をされることを期待します。チェーン店、大型店とは少し違う味のあるポイントを訴えていただきたいと思っています。

一味違う地元の商業、近郊に立地した農業が、牛久市を住んで良い、そして愛することのできる街にするものと考えます。重ねて提案いたしたく。

2. 市街地東地域分野について

人口の多い、割合広い地域について実現を期待し議論し、纏めをさせていただきました。多くが計画・期待通りに進展することを期待いたします。

中でも牛久駅周辺の位置づけが重要と考え、東口改良に関する活動に加わり、平成 22 年には、市の要請を受け、「牛久駅前かっぱつ化実行委員会」を協議会メンバー 3 名も加わり組織しました。

サラリーマンの街である牛久市には、街の芯になる場所がなく、退職者を含むサラリーマン、その家族の「いこう」、「つどう」場所が見当たらない。「いこう」、「つどう」場所として駅周辺が適当と考え活動を続けています。今一歩盛り上がりません。

現在では、イズミヤが撤退し、庄屋、ローソンも撤退し西口は、全く静かな場所になってしまいました。

から対策を講じていくことが必要と認識しております。

そのため、農地集約、高付加価値化、地産地消、観光資源としての活用などを、意欲的な農業者とともに取り組んでいきます。そういった中において、民間資本（企業）の誘致も視野に入れてすすめていきます。

こうした考え方については、**基本計画第 5 章 2 節**に記載しています。

③商業振興について

商業については、ロードサイドへの大型店の進出により市全体の生活利便性が高まっている一方で、駅周辺の商業店舗の閉鎖などにより中心市街地が空洞化し、まちなぎわいの低下などが生じており、多くの市民の方々が対策を望んでいることであると認識しております。

そこで、市民も観光客も楽しめるまちづくり（都市型観光）の視点で、農業、商工業等の連携した取り組みをすすめていきます。現在、商工会青年部の方々などの積極的な活動により、様々なイベントなどが開催されていますが、今後はこうした民間主導の取り組みを一層支援していきます。

こうした考え方は、**第 5 章 3 節**、**第 5 章 6 節**に記載してあります。

2. 牛久駅周辺地区の活性化について

牛久駅東口および西口の活性化については、毎年行っている市民満足度調査においても多くの市民の方々からご意見・ご要望を頂いております。

上記のとおり、市民も観光客も楽しめるまちづくりを目指した飲食店や商業店舗の誘致や起業の支援による魅力的なメインストリートづくり、今後必要な都市の機能を検討しながらエスカードビルへの対応をすすめていきます。

人口 85,000 人のうち、5 万人程度を対象にし得る地域がどうあるべきか想像しつつ、少々「かっきのある」そして、「つどう」、「いこう」場所を想い、基本的に必要な形を、少しずつ創り上げるのが求められています。

牛久駅前かっぱつ化実行委員会は、ソフトの部分に重点をおいて活動していますが、どうしても期待したい、そして自治体の力で具備すべきインフラが不足しています。

科学万国博覧会の恩恵を受け、想像を絶する大規模のインフラを伴う進出がありました。牛久駅周辺にはイズミヤ、西友、高島屋、そごうがあった。すべて地元の自前ではないインフラです。

この時期に最低限の地元の自前の基本的な施設ができていれば駅前空洞化は一部なりとも回避できた。

今からでも進めざるを得ないものとして、市内観光案内、催し物案内、物産紹介、安全情報提供等の拠点づくり、次に「いこう」、「つどう」場所形成にあたり、簡単な飲食施設の招待が早急に求められます。

また、西口エスカードビルの活用について、商業施設としてばかりでなく将来を見据えた活用計画を考えるべき時期にあります。天井が低いが耐震性は、具備した建物をどう活かすか。

適当に償却が進んだ大切な施設であります。市民から要望を求めてもよい、いい有効な施設にしたい。

牛久駅前かっぱつ化実行委員会は、少しでも役に立つ活動に取り組むため、NPO 法人化を進めました。現在のメンバーは、30 名弱で、ニギワイづくりのどんどん祭り、牛久駅周辺かっぱつ化マップ作成・提供、インターネット TV による情報提供、牛久駅から「かっぱ号」を利用した散策路紹介等を行っています。

近く、「いこう」場所づくりにも取り組みたく。

引き続き計画の強い推進を期待します。

こうした考え方は、上記同様に第 5 章 3 節、第 5 章 6 節に記載してあります。

また中心市街地の活性化においては公共交通体系や道路環境、駐車場整備などのハードも必要であり、長期的な都市計画を見直しながらすすめていきます。

こうした考え方は、第 4 章 1 節、第 4 章 3 節に記載してあります。

<p>2</p>	<p>1. [訂正のこと] P56 と P82 の「1 日平均乗降客数」は「1 日平均乗車客数」である。</p> <p>2. 統計データを最新にする。</p> <p>3. P106 広域行政の推進のところに「8. 交通」を入れる。「交通」においても広域化のころみをしている。 ・今後の課題: コミュニティバス等市民の足となっているバスを広域化し、利便性を高めるべきである。 [例 1] ゆったり館(龍ヶ崎)へ行くバスは牛久駅から出ている等 [例 2] つくバス(つくばのコミュニティバス)は牛久駅、ひたち野うしく駅によらない。</p> <p>4. P82 中心市街地の活性化 ・エスカードからイズミヤが撤退した。また、駅前のコンビニ「ローソン」も撤退し、2 階の「庄屋」「歌うんだ村」も撤退。駅前の空洞化が進んできている。行政として具体的にスピード感をもって取組むべき。</p> <p>5. 全体に方針だけで具体策が書かれていない。(総論のみ)</p> <p>6. 「牛久市第 3 次総合計画後期基本計画」はいつ正式発表になるのかわからない 又、今後の 5 年間の方針に対する具体案の発表はいつなのか?</p> <p>7. 「スローシティをめざす牛久市」というスローガンはなくな</p>	<p>1. 訂正いたしました。</p> <p>2. 国統計の更新状況を確認し、可能なものについて更新しました。</p> <p>3. 現在「稲敷広域エリアバス」を運行していますが、実証運行段階です。広域間の交通ネットワークについては、第 4 章 1 節にて方向性を示しています。</p> <p>4. エスカード等、牛久駅西口周辺については、今後地域にとって必要な機能を検討して対応していきます。</p> <p>5. 総合計画は市の全計画の上位に位置するものであり、基本計画は方向性を示すものです。具体策については、関連する個別の計画によります。</p> <p>6. 5 月頃の公表を予定しております。 具体案については現在実施計画を検討中であり、5 月頃の公表を予定しています。</p> <p>7. 当市では「スローシティ」として認定されることを目指して</p>
----------	---	--

	<p>ったのでしょうか？一言もふれていないのは、おかしい。</p> <p>8. 牛久市の担当課を明記すべき。</p>	<p>いたわけではなく、その考え方に共感していたものです。「スローシティをめざす」という表現が、認定を目指しているように受け取れるというご意見もあり、「スローライフ」等に表現を変えておりますが、今回の計画においても考え方の方向性は変わっておりません。</p> <p>8. 担当課は、組織改編等により名称や事務分掌が変更されることが多々あり、変更後の混乱を避けるため明記しておりません。</p>
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての目標指標の設定根拠がまるでわかりません ・具体的にどんな施策をどの程度のお金をかけると数字がどれくらい変わるとか、人口が減少するので、施策を打っても横ばいですとかです。 ・市の予算は限られているので全て達成できるわけが無いはず。テーマが挙げられているから目標を現状維持の目標にとりあえずしたようなテーマは不要です。 ・期限を付けるなら優先順位を付け、お金を使うべきです。前期で状況は分かっているはずですから同じパターンで後期も計画するのはまるで学習してないこととなります。管理していないのと同じです。 ・予算編成は1年ですから目標に到達出来る様に、1年ごとに修正出来る計画を作成してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標指標は、基本的には前期基本計画を踏襲しているものです。各章各節に関連するものであり、行政が、あるいは市民の皆様と協働で積極的に推進可能なもので、かつ実績値を随時把握可能なものを設定しています。 ・施策の投入量と人口や経済の数値の変化の相関などを把握することは困難であり、そういった指標は市の現状を把握・分析し、次の施策を検討するための参考指標と考えています。 ・総合計画は市の施策を網羅したものであり、現状維持が重要な施策も掲載しています。 ・今回の後期計画策定にあたっては、庁内各部課で作成している個別の計画との関連付けを再整理しました。これにより、本市の事務事業（予算の付いている具体的な事業）と総合計画との関連を明確にし、本市がどの分野にどのように予算配分しているかを「見える化」します。今後はこれを市民の皆様にご公表するとともに、成果検証にも役立てていきます。 ・3年間の実施計画を作成し、1年ごとに見直していきます。

<p>4</p>	<p>基本計画を読ませていただきました。</p> <p>9分野にわたり、実に広範囲な取り組みを、限られた予算と市役所の職員の方をはじめ、少ない人数でよく対応されていることを感じました。専門的な知識や根拠は希薄ですが、感じたことを述べさせていただきます。</p> <p>1. 市内すべての地域、すべての住民、すべての世代をカバーする施策が求められているが、総花的になりはしないか。</p> <p>2. 県南地域や牛久市の強み・弱みを分析して、取り組まれたらいかがか。</p> <p>【強み】「住みやすい街」である。茨城県は魅力度が低い分実質的な利点あり。</p> <p>①都心に50km電車で1時間。常磐線は電車が混雑しない(座れる)</p> <p>②地勢学的に風水害等災害が少ない。道路が平坦で広い。高速道路が縦横にある。</p> <p>③物価が安く、住宅価格が安い。家が広い。(生涯実質所得が多いことになる)</p> <p>④街中が混雑しない。図書館などが充実、利用度が高い。 ・市内、放置自転車やごみの散乱なく、乱暴な運転の車が少ない。治安が良い。</p> <p>【弱み】確固たる産業がない。知名度が低い(注)都心通勤者のベットタウンの一面も。</p> <p>3. 私の意見</p> <p>(1) まず、産業(第1次～第3次、第6次(1次x2次x3次産業の複合型)を増やす。 ⇒人が集まり・住む⇒生活シーンが増える⇒家族を持つ</p>	<p>1. 総合計画は広範にわたる行政施策を網羅する必要があるため、総花的なものにはなりません。</p> <p>2. 第3次総合計画の前期計画を策定するにあたって市民の皆様と検討させていただいた基本構想では分野の順番が「1. 健康福祉」「2. 教育分野」「3. 市民交流」になっているなど、ベッドタウンとして「住みやすいまち」を目指す、「牛久らしい」構成になっています。</p> <p>今回は、その基本構想に基づき基本計画の見直しを行ないましたが、こうした牛久らしさに加え、教育力の強化によるひとづくり、地場産業の振興によるしごとづくり、中心市街地のにぎわいづくりなどに焦点を当てて施策を増やしています。</p> <p>また、総合計画は分野を明確にした計画ですが、昨年度策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、ご指摘頂いたような「強み」を活かし、「弱み」に対応していく観点から、分野横断的な施策を体系づけています。</p> <p>3.</p> <p>(1) ご指摘のとおりであり、農業を観光産業の一つとして捉えた振興策として、地産外商の推進など、6次産業化などを視野に入れた取り組みを強化します。また、住勤近接(本計画では</p>
----------	---	---

<p>⇒子供が増える⇒消費が拡大する⇒地域の生業が発展する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業は、企業の誘致のみならず、農業から製造業、サービス(介護、情報活用・ICT)など地場中小企業を支援したい。住勤近接の仕事を増やしたい。 <p>(2) ストーリーを作る 9つの分野を個々ではなく相互の関連性を持たせ、優先順位をつけて取り組む。</p> <p>(3) 3地区:①旧市街(牛久駅)周辺 ②周辺部(奥野、久野、岡田地区など)③ひたち野うしく地区→人口動態、暮らし方に特徴/課題があり、それぞれにマッチした施策を当てはめる。</p> <p>(4) 近隣市町村との協調(視野を広く) ①茨城県南エリアのイメージ・魅力アップ ②社会インフラ施設の有効活用と効率化。(稲敷広域エリアバスは良い事例と考える)</p> <p>(5) 将来を担う若者の教育、人材育成(注) 文化、スポーツ、学術そのほかの分野で日本、世界的に活躍する人材を育成する</p> <p>(6) 個々の施策では国内、先行する市町村を視察。また、市民にPRし、声を集め参画を促す。(知恵や経験・技術を持った市民がたくさんおられる) (注)稀勢の里関の優勝・横綱昇進の話題は、超ビックな慶事で、牛久市をイメージアップしてくださった。これも突</p>	<p>職住近接としています)を視野に入れた市内雇用機会の拡大を視野に入れた施策を展開していきます。</p> <p>これらの考え方は、第5章2節、第5章4節に記載しています。</p> <p>(2) ご指摘のとおりであり、総合計画に基づいた分野横断的な取り組みを「まち・ひと・しごと創生総合戦略」により取り組んでいきます。</p> <p>(3) ご指摘のとおりであり、地域ごとの課題に対応するためには全地域一律の施策の投入ではなく、それぞれの課題に合わせた、あるいは強みを活かす対策を講じていきます。</p> <p>(4) ご指摘のとおりであり、観光や交通、事務効率化といった面での連携を検討し、推進していきます。 これらの取り組みは第4章1節、第5章3節、第7章4節に記載しています。</p> <p>(5) ご指摘のとおりであり、教育分野の施策推進により、地域の人材に活躍して頂いて、将来人材の育成に取り組んでいきます。 これらの取り組みは第2章3節に記載しています。</p> <p>(6) ご指摘のとおりであり、市民の皆様の多様な知識・経験・技術などを福祉・教育・文化・まちづくりなど多方面で発揮して頂けるような機会づくりを推進していきます。本計画全体における「協働・協創のまちづくり」につながるものです。</p>
---	---

	然生まれたわけではなく、竜ヶ崎市含め、育ててくれた環境、先生方、後援会の方々の力に支えられて今日に至っていると考える。	
--	---	--